

第1章 はじめに

1.1 調査の目的

石綿含有廃棄物等の処理の安全性、確実性を確保することは極めて重要かつ喫緊の課題となっている。

そのため、環境省では、処理方法の多様性を確保することにより、より安全な処理に資することが必要なことから、新たな処理技術について検討するため、平成17年度から処理技術やそれに付随する測定方法等の検討を行っているところである。

平成17年度は廃棄物処理施設における処理技術の検討を行ったところであるが、平成18年度については平成17年度の結果を踏まえ、生産設備（セメントキルン）のテストプラントを活用した処理技術についての検討を行うものである。

本調査の目的は、学識経験者、業界関係者及び地方自治体の担当者などからなる構成される検討会の助言指導をいただきながら、生産設備（セメントキルン）のテストプラントを活用した処理技術や無害化の評価の検討を行い、適切な石綿含有廃棄物等の処理の推進を図ることである。

また、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下、廃棄物処理法とする）の改正に合わせて、「廃石綿等処理マニュアル」及び「非飛散性アスベストの廃棄物の取扱いに関する技術指針」の改訂作業を行い、処理マニュアルの整備を行う。

1.2 調査の内容

1.2.1 石綿含有廃棄物等の処理技術検討会の設置

学識経験者、業界関係者及び地方自治体の担当者などからなる「石綿含有廃棄物等の処理技術調査検討会」を設置し、技術的助言を得ながら石綿含有廃棄物等の処理について総合的に検討を進めた。なお、検討会の構成委員は表 1.2-1 に示すとおりである。

表 1.2-1 検討会委員一覧

名 前	所 属
朝賀 光	株式会社エーアンドエーマテリアル環境品質部長
尾花 博	太平洋セメント株式会社開発推進部長
坂井 悦郎	東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻助教授
◎酒井 伸一	京都大学環境保全センター教授
重田 道正	山口県環境生活部廃棄物・リサイクル対策課調整監
野馬 幸生	国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター 物質管理研究室室長

◎委員長

五十音順 敬称略

<検討会の実施日>

第1回：平成19年2月20日（火）

第2回：平成19年3月30日（金）

1.2.2 検討内容

- ・ 石綿含有廃棄物等の無害化処理技術の実証試験
- ・ (仮称)石綿含有廃棄物等処理マニュアルの作成

1.2.3 検討方法

本調査での検討方法は以下のとおりである。

(1) 石綿含有廃棄物等の無害化処理技術の実証試験

セメントキルンのテストプラントにおいて、石綿含有試料等を用いて無害化の実証試験を実施し、前処理設備の要件、排ガス処理設備の要件、設備への投入方法、運転要件及び周辺環境への影響及び排ガス、処理後物の性状等を検討した。

(2) 石綿含有廃棄物等処理マニュアルの作成

法律の改正を踏まえ、「廃石綿等処理マニュアル（暫定）」及び「非飛散性アスベストの廃棄物の取扱いに関する技術指針」を改訂・統合し、新たなマニュアルを作成した。